

平成 21 年 8 月 31 日

教職大学院の教育の質の保証に関する協力者会議 説明用資料

## 鳴門教育大学高度学校教育実践専攻（教職大学院）の取り組み

鳴門教育大学高度学校教育実践専攻（教職大学院）

佐古秀一・久我直人・葛上秀文

## 1 本学教職大学院の特色

基本的な理念：学卒者，現職教員の双方に理論と実践の両面での専門性を確実に習得できる教職大学院

？ 1： 2ヶ年間で何を学ばせようとしているのか？

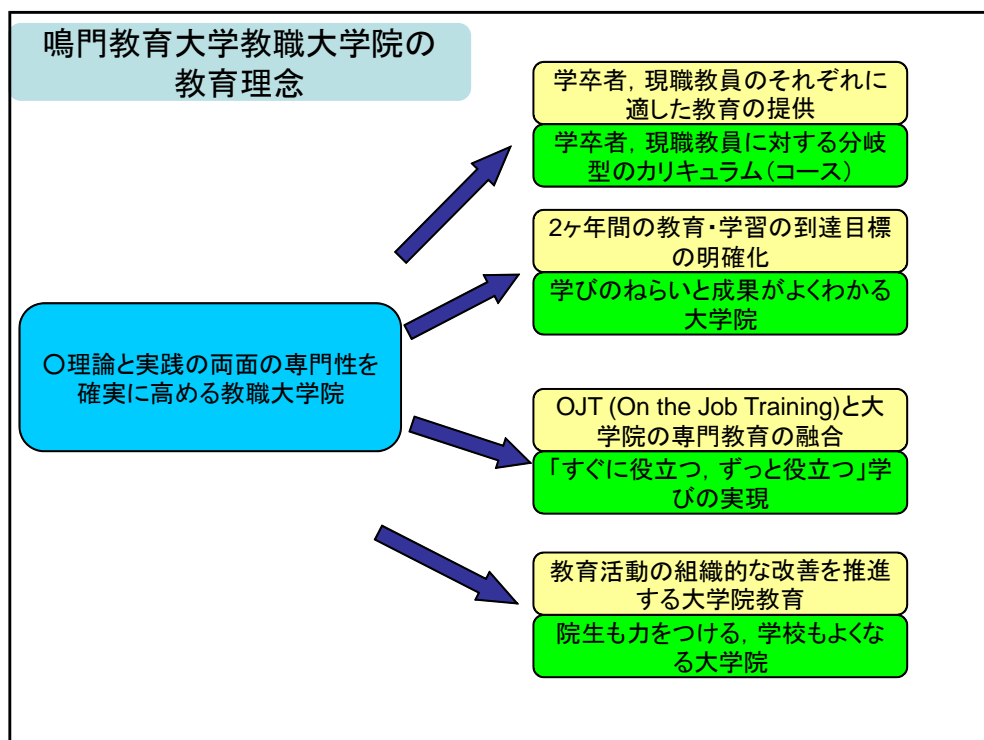
⇒ 教育のねらい 到達目標とそれに準拠した教育活動及びその改善（評価点検）の必要性

？ 2： 学卒者，現職教員の相違にどう対応するか？

⇒ それぞれの教育のねらいに対応した分岐型のカリキュラム

？ 3： 理論的な知識，スキルと実践力をどのようなカリキュラムによって統合していくのか？

⇒ OJT と専門教育の統合を実現する「実習」を柱とするカリキュラム構成



## 2 現職教員，学卒者それぞれに必要な教育を提供する教職大学院

- ・ 現職教員と学卒者の相違

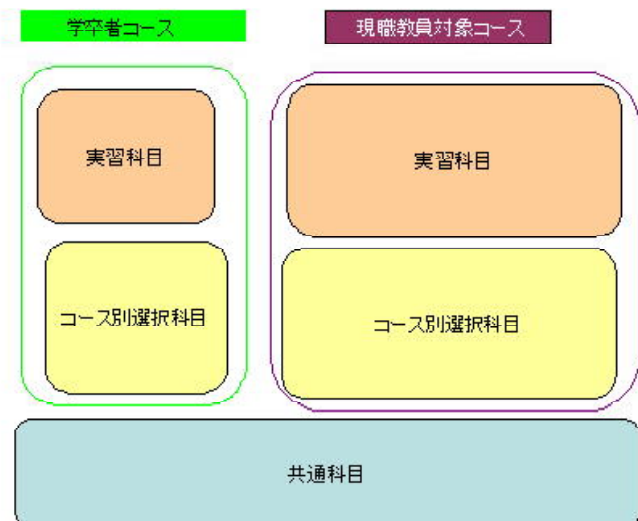
教職大学院で育成すべき知識，スキルの違い

それぞれ有する既有知識，経験の違い（← 新構想大学の経験から）

現職教員，学卒者それぞれに必要な知識，スキルを確実に習得させるために，学卒対象コース，主として現職許員を対象とするコースを分離し，共通科目を除いて，コース別選択科目，実習科目を別立てとした（分岐型）。

後述する教職大学院における到達目標についても，現職教員と学卒者の項目立てを別立てし，それぞれの学習課題を区分するようにした。

学校教育研究科の概要	
<b>専門職学位課程 (50人)</b> ● 高度学校教育実践専攻 (50人) ○ 学校・学級経営コース (10人) ○ 学校臨床実践コース (15人) ○ 授業実践・カリキュラム開発コース (15人) ○ 教員養成特別コース (10人)	<b>修士課程 (250人)</b> ● 人間教育専攻 (90人) ○ 人間形成コース (15人) ○ 幼年発達支援コース (15人) ○ 現代教育課題総合コース (15人) ○ 臨床心理士養成コース (45人) ● 特別支援教育専攻 (20人) ● 教科・領域教育専攻 (140人) ○ 言語系コース (35人) ○ 社会系コース (20人) ○ 自然系コース (20人) ○ 芸術系コース (30人) ○ 生活・健康系コース (25人) ○ 国際教育協力コース (10人)
<b>取得学位：教職修士（専門職）</b> <b>人材養成の目的</b> 幅広い視点からの問題分析力・対応力・解決力を有し、学校や地域で指導力を発揮できる教員及び実践的対応力に優れた新人教員を養成	<b>取得学位：修士（教育学）</b> <b>人材養成の目的</b> 特定の教科・領域等における専門性を有し、得意分野で優れた実践を展開できる教員を養成



- ・ 現職教員と学卒者が「学び合う」ことのメリット

共通科目における学び合い（小集団等の活用）

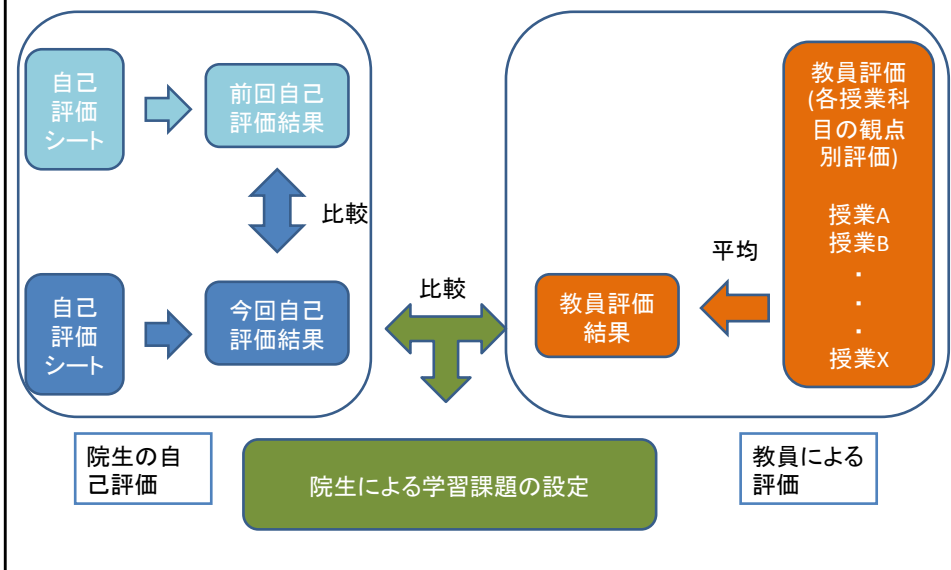
院生研究室の配置の工夫（生活集団における日常的交流）

### 3 学びの成果と課題がよくわかる教職大学院

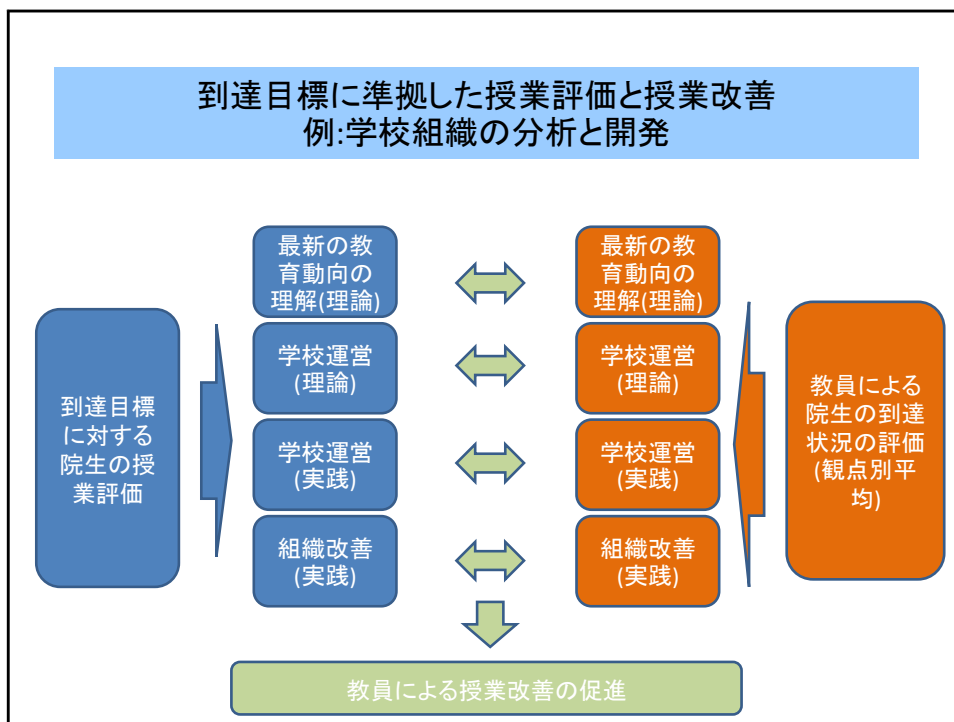
2ヶ年間にわたる学習と指導の目標と成果を可視化し、大学院生，大学教員，学校関係者が共有するシステムを構築する。

- ① 教職大学院における教育の到達目標づくり（⇒ 学びのポートフォリオ参照）  
本学の教職大学院で習得すべき内容を，3つの領域，11の観点で提示（本学教職大学院の学習指導要領）  
暫定版（21年版）の運用を開始
- ② 到達目標に準拠した大学院生の自己評価（学習履歴）システムの構築
  - ・定期的な自己評価
  - ・学習週録の作成（3つの領域に関する学びを週ごとに整理）と蓄積  
院生個々が蓄積するだけでなく，教職大学院コラボレーションオフィスで全記録のファイリング
- ③ 学びの成果に関する教員による院生評価とそのフィードバック（今年度後期授業から実施）
  - ・各授業科目の成績評価について，該当する到達目標の項目を組み込み，各院生が授業を通してその項目をどれほど習得できているかを評価し，大学院生にフィードバックする（準備中）。
- ④ 到達目標に準拠した授業評価の実施（今年度後期開設授業から実施）
  - ・各授業科目が，到達目標の習得をどの程度達成できているかを点検する。  
すでに前期授業科目において大学院生からの授業評価を実施しているが，この授業評価に，各授業科目が相当する到達目標に関する評価項目を組み込む。
- ⑤ 到達目標の内容及びそれに準拠した教育成果に関するデマンドサイド（教育委員会，学校長）からの意見聴取
  - ・教職大学院カリキュラム開発チームにおける意見聴取
  - ・現職教員に関しては，派遣元（＝本学においては後述する実習先）の校長を対象に意見聴取を実施
- ⑥ 到達目標に準拠した教職大学院のカリキュラム体系化

## 自己評価と教員評価を踏まえた学習課題の設定 (学習成果の確認と課題の明確化)



## 到達目標に準拠した授業評価と授業改善 例:学校組織の分析と開発



4 理論と実践の統合を図る，実習を中心としたカリキュラムの構成  
 (「すぐに役立つ，ずっと役立つ」学びを実現する教職大学院)

5 学校改善と一体化した大学院教育の実現  
 (「院生も伸びる，学校も良くなる」教職大学院)

本学教職大学院のカリキュラムの柱 = 「実習」  
 したがって，実習科目の減免措置は実施しない。  
 すべての専任教員が実習指導を担当する。

① OJT (学校経験) と大学院における専門教育の一体化を実現し，理論と実践の両面  
 が2ヶ年間で習得できるようにする

- ・現職教員：スクールリーダー (ミドルリーダー) として，学校の組織的な教育活動の改善をリードできる知識，スキル，実践力を大学院教育として習得させる
- ・学卒者：これからの学校教育の担い手として活躍できる新人教員として，豊富な実践経験とともに理論的な知識を備えた，幅広い実践適応力を育成する

### 「鳴門方式」の実習による理論と実践の融合

<p>＜主として現職教員学生を対象とする学校・学級経営コース，学校臨床実践コース，授業実践・カリキュラム開発コースの実習では＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の実践的課題に対する分析・解決力を育成します。</li> <li>●個人だけではなくチームや組織で解決していくための理論と実践を習得します。</li> </ul> <p style="text-align: center;">現職教員学生，大学教員，勤務校の教員が協働</p> <p>課題の領域：授業（教科指導），カリキュラム，生徒指導・教育相談，学級経営，学校経営等について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が直面している課題の分析と解決に関する実習</li> <li>・実践的な課題解決過程における専門的知識の活用と検証、それによるリーダー教員としての指導力の育成</li> <li>・派遣された現職教員の力量向上とともに、勤務校（置籍校）の教育活動、学校経営の改善に寄与する実習</li> </ul>
<p>＜新人教員の育成をねらいとする教員養成特別コースの実習では＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●継続的なインターンシップ型の実習を行います。</li> </ul> <p style="text-align: center;">大学教員，地域の学校（連携協力校）の教員が協働</p> <p>教員の仕事と実践的課題：児童理解，教科指導，学級経営，生徒指導，校務など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習による学校経験と大学における理論を関連づけた継続的な学習</li> <li>・基礎実習（学級経営，児童理解，授業実践）と総合実習による体系的な実践力の育成</li> <li>・教育委員会，連携協力校，大学の緊密な連携による実習指導</li> </ul>

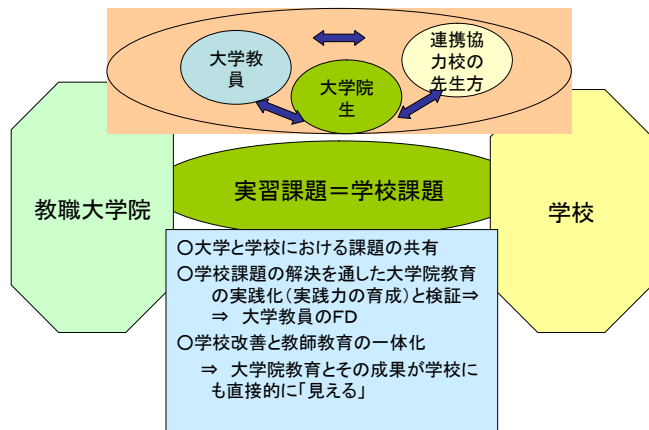
# 学校改善と大学院教育の一体化

## S. I. T. E (School Involvement Teacher Education)

○JTと大学院専門教育の接合による教師教育

=学校と一体となった教師教育, 学校の教員, 大学院院生, 大学教員のチーム・ラーニング

=学校の改善と一体となった教師教育



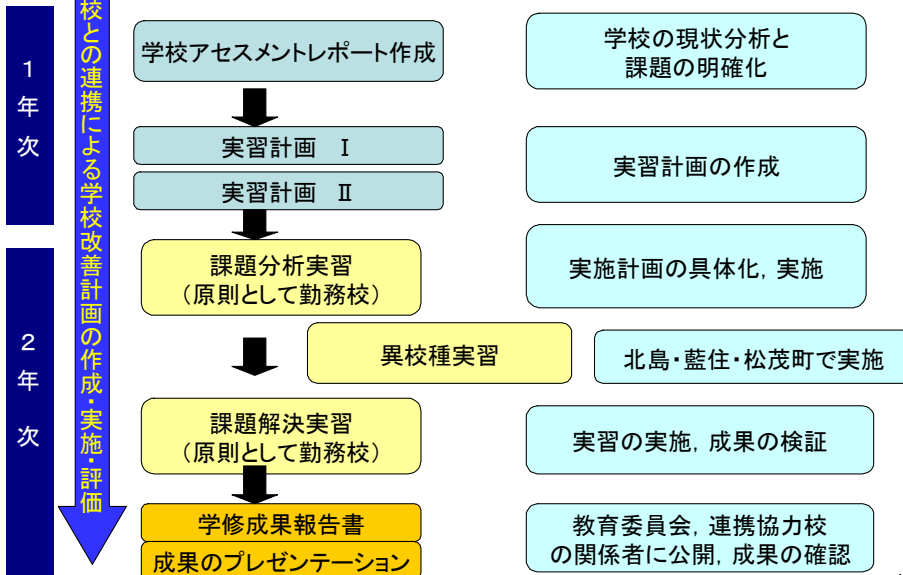
7

実習科目等の配置と指導の流れ（現職）：

学校改善に関する R-P-D-A のサイクルに沿った実習スケジュール

## 専門的知識と実践的な指導力を備えたリーダー教員の育成のために 主として現職教員を対象とする3コースの実習

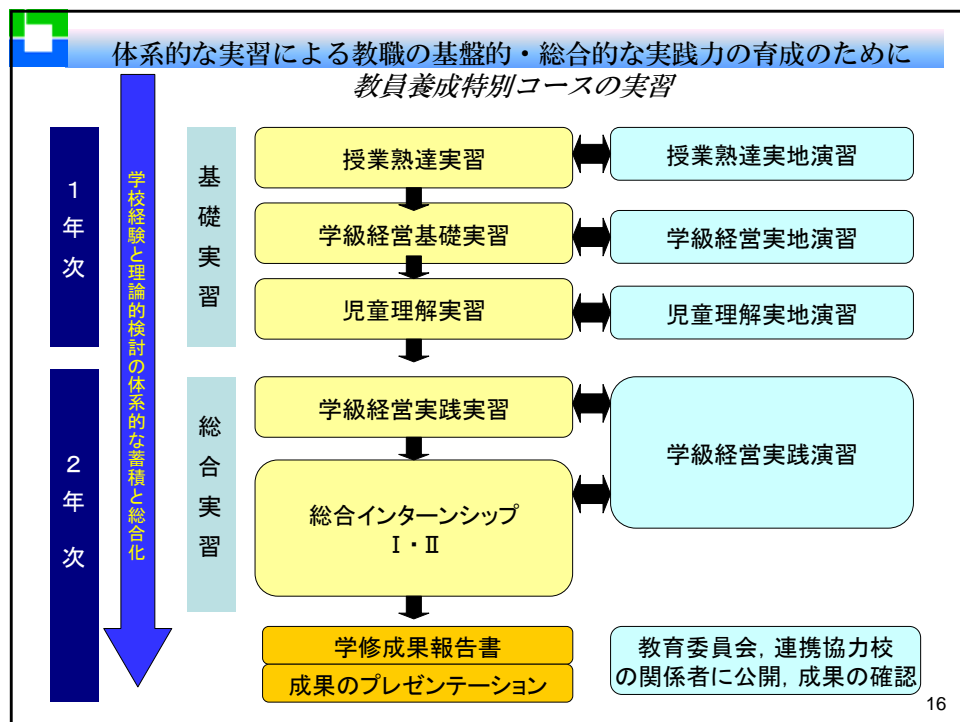
学校との連携による学校改善計画の作成・実施・評価



15

実習科目等の配置と指導の流れ（学卒）

：基礎実習から総合実習へと学校経験の体系化と蓄積を図るカリキュラム



## 6 今後の課題

### (1) カリキュラムの見直し

- ① 共通科目, コース別選択科目の体系化をはかる。(到達目標との関連性)
- ② 大学院生の関心, 課題により適合する履修が可能なように選択幅(単位数と選択可能授業科目, とくに教科系)を拡大する。
- ③ 実習科目の充実(現職, 学卒それぞれに対して, 実習と実習関連科目の配置並びに指導体制を見直す。)
- ④ 共通科目の見直し: 共通科目の一部(実践的側面を取り扱う)授業科目については, 現職版と学卒版を分離することなどを含めて, 内容, 指導方法を見直す。

### (2) 教育方法の見直し

- ① TTによる指導方法の見直し(三大学連合GP)

### (3) 教育委員会等との一層の連携構築

デマンドサイド/サプライサイドの発想 ⇒ 人材育成のパートナーシップの構築へ

- ① 育てるべき具体的な人材像, 教職大学院における到達目標の共有
- ② 教職大学院を活用した人材育成の在り方についての合意形成
- ③ 大学側からの積極的な情報発信

### (4) 教育の成果を明示する(成果を出す)

## 教職大学院に学んで：大学院生アンケートより

### 【現職の院生】

現場に必要なカリキュラムやゼミがあり、即役立つことを身につけることができたように思う。  
置籍校の実習も非常に興味深いものだと感じる。学校の中にずっといたら考えもしなかったことが、少しではあるが分かった。

今まで教職経験で培ってきたことを教職大学院で学んだ理論や知識をもとに裏づけができ、同時に見直すことができたことは大きなメリットであると言える。

スタッフも研究者だけでなく現場の経験がある実務家の先生もおり、我々のニーズに合った研修ができた。

また、講義は現場の課題とマッチしたものが多く、興味関心を持ちながら、また自分の置籍校を思い浮かべながら受講することができた。どの講義も院生同士が討議したり、協同で作業をしたりすることが多く、いろいろな県の異校種の先生方と意見交換できたことは、大きな収穫だった。

教科指導、生徒指導に関して、その方法や教育的効果について理論的に考える機会や、大学教員や校種の異なる院生の方と議論を深めることで、自分の教育観の形成や深まりに繋げることができ、今後の教育活動及び生徒や教員との関わり方について、より広い視野から考えることができるようになった。

所属校を離れ、定期的に訪問することで、学校全体について客観的な角度から見ることができた。

生徒指導・教育相談、カリキュラムマネジメント、学校・学級経営等にかんする幅広い講義があり、教科指導中心の教育だけでなく、より広い視野で教育について知識を得ることができた。

先進的な取り組みを行っている小学校や中学校、また、研究会などに教職大学院の先生方と参加させていただき、学校現場では経験できないことをさせていただいた。

### 【学卒院生】

・ストレートで来ている私にとっては、全国から優秀な先生方が来られることで、たくさんの刺激をもらうことができるということが魅力ではないかと思います。

・教職大学院は、現職の先生方がいるので現場の生の声や経験をきくことができることです。また、コース内でも現職の先生方から聞いた課題や問題についても考える機会が増え、教育についての理解が深まりました。

・長期間の実習を行うことによって経験を積むことができる上に、課題を大学に持ち帰ってじっくり考慮することによって課題に対応する力を身につけることができると思います。

・コースごとにかたまるとはならずコースの枠を越えて交流を図ることができる

・現職の先生方に混ざって話し合いをするとストレートの私たちの意見に対して生の声を聞くことが出来るのでとても勉強になる

・みんなが高まっていこうとする雰囲気なので自分も勉強を頑張ろうと思える

・一年半の実習が大変魅力的です。この中で自分の力を高めていきたいとします。

・実践を積みながら専門の大学の先生方のご意見も聞くことができ、現職の先生方とも意見交換出来るのがとても魅力的だと思います。